1.3.7.9.10.12.15.17. 8ヶ1切

日刊 人事通信
發行所 東京市京橋區北槇町一〇
日刊 人事通信社
振替 東京 七六二一三番
電話 京橋 六一七、二六五六

待合福の家の秘密……暴露

爭議資金を消費す

小泉某失敗の卷

野田爭議團幹部と稱する小泉某は十月十四日から二十日まで東京小石川白山の待合福の家に同所叶家の鬱妓小奴を相手に居續けし五百餘圓を蕩盡したがこの金の出所について當時屢々

同待合に出入した野田購買利用組合理事長青木源四郎氏は左の如く語つた『小泉は自分に金があつて遊んだのでなくその五百圓は野田釀造勞働組合の爭議資金から秘密に取り出したのです、うち六十圓だけ私から出してゐます當時私と會合したのは小泉が爭議資金をかくの如く費ひ込んで困るから何んとかよい工夫はないかとの事でいろ〳〵相談したのです、相談の結果

仲裁者を入れて會社から三萬圓を取り出し、そして爭議團を切り崩す計畫を樹てたのでしたが不調に終つたのでそれ以來私は小泉と別れました、尚あとで承知したことですが小泉はそれから小奴を連れて白山から逃走し、野田にかくれたさうですが叶家からは驚いて警察に捜査願ひを出したとかいつてゐました、當時小泉は別の待合秋日でも遊興したがその金は全部他の人が仕拂つてゐます』

諒闇中この騷ぎ

[illegible]分が脱退して内部から爭議團を潰すのはなんでもないがこの爲め身邊が危いやうなことがあつては――と心配してゐたから、それでは自分が君の身體を二三年預かることにしやうと固く約束が出來てゐたのです、私は爭議團のいはゆる幹部連には各自相當の貸しがあるから、この方面から懷柔しやうと思つてゐました、尚小泉といふ男は一面いはゞ女喰ひの道樂者で昨年から白山の八幡といふ待合に出入し小奴には相當の借財をさせてゐます、小奴も今は拔き差しならなくなつて野田方面にかくれてゐるのです』

小泉の非行

二人を傷つく

【野田電話】野田醤油會社では五日某東京新聞が爭議團幹部小泉某の非行を訐いた掲載紙を全町に配布せる爲爭議團が之を中止せしめんと各所で小競合を演じて居たが五日午後十時頃野田醤油會社十工場夜警井野賢次（三二）は野田町琴井町カフエー三杵前で突然十數名の爭議團員に鐵棒で頭部を毆打され全治約三週間の重傷を負つた尚同夜十一時頃同町萬町地先に於て罷業團員四工場工員中村彌市（二六）は同樣頭部に約二週間の重傷を負つたので野田署で加害者を敲探中である